

第 10-1 号

耕人

『耕人塾』

塾長 木村 民男

令和3年5月22日(土)

第 10 期 『耕人塾』 で目指しているもの

『耕人塾』は東日本大震災1年後にスタートし、今年度で第10期を迎えることができました。これまで多くの方々にご支援をいただき、『耕人塾』の活動が地域の方々に理解され、輪が広がりつつあることをうれしく思います。今年度は第10期という節目の年に当たるので、『耕人塾』で目指しているものについて確認したいと思います。

趣旨は「石巻地域の中・高校生の『人間力』を磨き、地域社会に貢献する人材を育成し、併せて大学生や市民の学びの場にする」、テーマは「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～」、実践事項は「あいさつ・清掃・ゴミ拾い+1(プラスワン)」で、これまでと同じです。

『耕人塾』では「人間力」を「徳・体・知」ととらえ、徳を養い、心体を鍛え、知を高めるとしています。『耕人塾』での学びや活動を通して「人間力」を磨き、その「人間力」を「利他の心」で実践していくことが「地域社会への貢献」に繋がると考えています。

「世界に誇れる」については、東日本大震災から10年が経過し、公共施設や道路など復興が進み街並みも整備されてきましたが、真の復興は人材育成だと考えています。石巻地域の良さを生かしながら、さらに住みよいまちにしていくために実践活動を通して、地域住民が主体となるまちづくりの輪を広げ、心安らぎ自他に誇れるまちにしていくことが大切だと考えています。

実践活動の「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」には「徳」を養うための大事な要素が含まれています。「あいさつ」は相手を尊重することや謙虚な姿勢など「謙譲の心」を、「清掃」は使ったものに対する「感謝の心」を、「ゴミ拾い」は「奉仕の心」を養うことに繋がります。そして、「+1(プラスワン)」はどのような気持ちで実践するかも含めて、実践の仕方を自分なりに工夫することで自己の「徳」を更に向上させることができると考えています。

今年度は、実践活動と「プロジェクトI(出会い、ふれあい、関わり合い)」を中心に、各自が設定した課題を実践し、その成果を発表する機会を設ける計画を立てています。このような活動に取り込むコンセプト(基本的な考え方)を「主体・楽しさ・創造」にし、塾生の主体性や創造性を生かした楽しい活動にしていきたいと思っています。コロナ禍への対策については昨年度の経験を活かして万全を期すとともに、実施についても柔軟に対応していきます。

今年度も石巻専修大学、宮城県教育委員会、石巻市・東松島市・女川町教育委員会、河北新報社、石巻日日新聞、三陸河北新報社(石巻かほく)、ラジオ石巻FM76.4の後援をいただき、地域の方々と共に「世界に誇れる石巻地域」への大きなうねりを起こしていきたいと思っています。今年度は節目の年でもありますので、「成果を出す10期」と位置付け、楽しく充実した活動にしていきたいと気持ちを新たにしています。

「志を立つ」(橋本左内「けいはつろく啓発録」から)

幕末の志士である橋本左内が、15歳(満14歳)の時に自分の生き方の指針として記した5か条が「啓発録」です。その中に「志を立つ」があります。左内は「志とは、自分の生き方の決意を固めることである。志を立てるには、聖賢(せいけん)の教えや歴史の書物を読んで、その中から深く心に感じた部分を書き抜いて壁に貼り、いつもそれを眺めて自己を省みて、自分の足らぬところを努力することが大切である。そして、自分が少しずつ前進するのを楽しみとすることである。」と記しています。「志」とは、自らの意志で自己を成長させ、地域社会に貢献していこうとする決意を固めることです。塾生の皆さんも各自の「志」を立て、今日から新たな自分をつくって行くために歩み出しましょう。皆さんがどのように成長するか楽しみです。